

## 1 学習習慣と学力について

### (1) 勉強が好きで、理解がすすみ、意義や有用感をもつことと学力の間には大きな関係がある。

- 国語の「勉強が好き」「大切だと思う」「授業の内容がよく分かる」「将来、社会に出たときに役に立つ」と思ったり考えたりしていることと、その教科の正答率には、小学校において深い相関がある。
- 算数の「勉強が好き」「大切だと思う」「授業の内容がよく分かる」「将来、社会に出たときに役に立つ」と思ったり考えたりしていることと、算数と理科の正答率には、小・中学校ともに深い相関がある。理科においても同様である。

### (2) 目標（めあて・ねらい）が示されることや振り返る活動を行うことと学力には大きな関係がある。

- 「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていた」「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と正答率には相関がある。特に小学校において深い相関がある。
- 「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていた」とことと、小学校において深い相関がある。

### (3) 発表したり話し合いをしたりすること、自分の意見や考えを書いたり話したりすること、うまくつたわるように考えたり理由が分かるように書くことと、学力の間には大きな関係がある。

- 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意」「最後まで聞くことができる」とことと正答率には、小学校において深い相関がある。
- 「自分の考えを発表する機会が与えられていた」「学級の友達との間（生徒の間）で話し合う活動をよく行っていた」「学級やグループの中で自分たちで課題を立ててその解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた」とことと正答率には小・中学校ともにかなり深い相関がある。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」とことと、正答率の間には深い相関がある。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりする」「意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」「自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気をつけて書く」「文章を読むとき、段落や話のまとめごと内容に理解しながら読んでいる」とことと正答率には小・中学校共に深い相関がある。
- 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べた事を発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と正答率には小・中学校共に相関が深い。

#### **(4) 家庭での宿題等に計画を立てて規則正しく取り組めることと学力の間には、非常に強い関係がある。**

- 「家で計画を立てて勉強している」「家で宿題をしている」「予習・復習をしている」と正答率には、小・中学生共に相関がある。これまでも同様の傾向があるが、特に「宿題」と小学校の正答率には深い相関がある。

#### **(5) 読書と国語の学力には大きな関係がある。**

- 「読書が好き」と国語と理科の正答率には、相関がある。特に小学校において深い相関がある。

### **<指導上の留意事項>**

#### **①授業づくりの工夫、指導の向上がよりいっそう求められる。**

- ・教科の勉強を好きにさせることが学力向上の第一歩である。
- ・授業において、その目標（めあて・ねらい）を示し、子どもの興味関心・意欲を引き出し、目的意識をもって学習に取り組ませる必要がある。
- ・また、知識や技能が定着し、「わかった」「できるようになった」という達成感を感じることができるよう、振り返り活動を重視する授業の工夫が必要である。
- ・教科を学ぶ意義や意味、有用性についても、子どもが理解できるような授業づくりが必要である。

#### **②友達と相談したり話し合ったりしながら、創造的な活動の充実が求められる。**

- ・自分でじっくりと考え、それを友達と交流しながら問題を解決する創造的な授業づくりが求められる。
- ・話したり書いたりするときに、自分の考えがうまく伝わるように理由や根拠を挙げながら組み立てを考え、それを発表する場が保障される、学びのスタイルを重視していくことが求められる。
- ・教師から情報を伝達する一方通行型の授業から、児童生徒が自ら声を発して学び取っていく授業を創りあげていく必要がある。
- ・「読み・書く・話す・聞く」の言語活動の充実を、国語科に限らず、各教科や道徳、総合的な学習の時間他、すべての時間で図る必要がある。

#### **③家庭学習の習慣化に依然として課題がある。**

- ・宿題の意義が特に小学校において表れている。学校では、授業の内容と宿題の関係を吟味したうえで、適切な宿題を与えることについて、いっそうの工夫をはかることが必要である。
- ・児童生徒の家庭での時間には限りがある。予習や復習の意味について、わかりやすく説明すると共に、予習や復習の意義が実感化できるような授業づくりについても工夫

を加える必要がある。

- ・苦手な教科についての勉強方法について丁寧に指導すると共に、家庭での克服方法を保護者と連携しながら共有化できるようにすることが必要である。発展的な課題・学習にとりくむことが望ましい子どもには、自学自習の発展のさせ方を知らせていくことも大切である。
- ・家庭における学習習慣の確立については、学級担任に一任することなく、学校をあげて、多くの機会、方法をとらえて、アプローチしていく必要がある。また、家庭の協力が不可欠であるから、

#### ④読書指導のいっそうの充実が求められる。

- ・読書については、各方面で述べられているとおり、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくために不可欠なものである。
- ・読書習慣を身に付けることは、一生の財産として生きる力となるばかりでなく、情報化社会の進展の中で、自ら考え、判断する力を培うためにもいっそう必要になってくる。国語科を中心に、他方面における読書指導の充実が求められる。

## 2 生活習慣と学力について

**(1) 基本的な生活習慣や家庭でのコミュニケーションが確立されていることと学力の間には、非常に強い関係がある。**

- 「朝食を毎日食べていること」と正答率には、小・中学校共に深い相関がある。
- 「同じくらいの時刻に起きている・寝ている」と正答率には、小学校において深い相関がある。
- 「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしている」と小学校国語の正答率には相関がある。
- 「家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事によく来る」と正答率には特に小学校ではかなり深い相関がある。中学校国語Bの正答率と相関がある。

**(2) 規範意識・自尊意識をもっていることと学力の間には関係がある。**

- 「学校のきまり（規則）を守っている」と正答率には、小・中学校共に相関がある。これまでも同様の傾向がある。
- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」と正答率には、小学校に深い相関がある。

### <指導上の留意事項>

#### ①基本的な生活習慣の確立へむけての取り組みが求められる。

- ・概ね良好な現状があるが、今後についても、規則正しい生活習慣を学校と家庭が連携を深める中で、確立していく必要がある。まず小学校段階から生活習慣を確立していく必要がある。
- ・小学校を中心に、家庭での会話や家の人が学校に来ることの重要性が表れている。積極的に家庭へのアプローチを続けていく必要がある。

#### ②規範意識を日常から大切にできる子ども、自尊意識を膨らませる子どもの育成をはかる

- ・規範意識の高さ、自尊意識の高さはここ数年良好である。子どもの「心の育ち」なしに学力向上は望めない。引き続き、粘り強く物事に取り組み、達成感が得られ、自分に自信がもてる生活づくりを、学校・家庭の協力の中で育てていく必要がある。心・技・体が一体となった教育活動の充実を図る必要がある。